

平成 19 年度予算の考え方

～ かわさきグッドサイクル予算 ～

平成 19 年度予算は、「第 2 次行財政改革プラン」と「新総合計画・川崎再生フロンティアプラン」における実行計画の最終年次の予算として、計画事業を着実に推進する一方、計画策定後に生じた環境変化にも的確に対応するとともに、徹底した行財政改革に取り組み、「元気都市かわさき」を市民の皆様が日々の生活の中で実感できるよう、次の点を基本に編成を行いました。

行財政改革による取組みを確実に予算に反映させました。

最優先課題である「行政体制の再整備」にあっては、「3 年間で約 1,000 人の削減」の目標達成に向け、着実に職員数の削減を図るとともに、給料表の見直しや勤勉手当への「成績率」の導入等を柱とする新たな給与制度に改めるなど、行財政改革を強力に推し進めてまいります。

また、行財政改革による効果を、昨年度の小児医療費助成事業の拡充等に加え、小・中学校の普通教室の冷房化に取り組むなど、市民サービスの拡充に反映させてまいります。

新総合計画に掲げる計画事業の一層の実現を図ります。

計画に基づき、「安全・安心な地域生活環境の整備」、「総合的な子ども支援」などの取組みを一層推進するとともに、7 月に開催される「アメリカンフットボールワールドカップ」の支援により、本市の魅力を広く内外に発信してまいります。さらに、10 月にはアートセンターを開館するなど、大きく変貌する新百合ヶ丘駅周辺を中心とした「しんゆり・芸術のまち」を推進し、活力あるまちづくりをめざします。

また、循環型社会の実現に向けて、普通ごみの収集体制を週 4 日から 3 日に再構築するとともに、ミックスペーパーの分別収集のモデル事業を拡大し、さらに生ごみリサイクルプランの取組みを強化してまいります。

自治基本条例に基づく市民本位のまちづくりに向けた取組みを推進します。

市政に市民が主体的にかかわるしくみとして、区民会議の開催やパブリックコメントの運用などに引き続き取り組むとともに、協働型事業のルール策定及び住民投票制度の創設に向けた検討を行います。

また、区役所窓口の土曜日開設を試行するなど、利便性の高い窓口づくりや市民満足度の高い行政サービスを提供するための取組みを推進します。

平成 19 年度予算は、これらの取組みにより、様々な地域で魅力と価値と活力の好循環が生まれるという意味を込め「かわさきグッドサイクル予算」とし、魅力が輝き活力にあふれる「元気都市かわさき」の実現に努めてまいります。